

こども食堂の認知と充足率の向上

指導教員 金沢学院大学 教授 広根 礼子

参加学生

4年：

池田 なつみ 伊関 楓 上田 百華 奥村 映有吏
喜多 玲香 黒川 理々香 幸林 美侑
高野 未来歩 得田 夕宇吏 又川 美智子
門前 絢南

3年：

荒川 七菜 香川 椎奈 鈴村 匡樹 高島 彩乃
中 栄輝 中島 なの子 中波 杏奈 中村 はるな
山賀 玲菜 松本 啓寿



本活動で協働させていただきました、おおくわこども食堂の土井裕平さん、かなざわっ子 nikoniko 倶楽部の喜成清恵さん・彩加さん、両こども食堂ボランティアスタッフのみなさんに、感謝の意を表します。また、出張こども食堂の主旨にご賛同いただき、第一回目の「出張こども食堂」の会場として快く高校の施設を使用させていただきました、石川県立津幡高等学校に御礼申し上げます。

こども食堂の認知と充足率の向上

金沢学院大学ヒロネゼミ
おおくわこども食堂
かなざわっ子 nikoniko 倶楽部

— あなたの地域に子ども食堂はありますか？ —

こども食堂は、こどもの居場所や地域の交流の場として、ますます重要性が高まっています。こどもも大人も等しく集える温かい場所として、気軽に利用するには、小学校区に1か所、こども食堂が存在していることが理想です。まずは、こども食堂の認知度向上を目的に取り組みを進め、こども食堂がない地域での出張こども食堂の開催、新規設立の後押しをすることで、充足率の向上につなげたい。

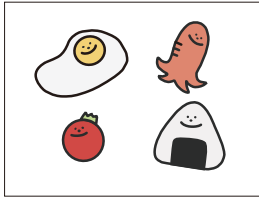
活動内容

6月

認知向上に繋がるキャラクターデザイン



みんなで持ち寄ったアイデアから投票でキャラクター決めをする様子



10月

出張こども食堂inつばた 会場:津幡高校



こども食堂運営者、県少子化対策監室メンバーによるフォーラム

7月

キャラクターをメインビジュアルにしたポスターや活動ユニフォームデザイン



決定したキャラクターデザインを元に作成したポスターとTシャツデザイン



石鹸水で羊毛をフェルト化させるワークショップの様子 お野菜ストラップ



フォーラムとワークショップの参加者が一堂に会して昼食

8月

スクリーン工房で活動ユニフォーム制作



流れ作業で仕事分担しながらTシャツ制作している様子



11月

出張こども食堂 in 子育て支援メッセ 会場:産業展示館



羊毛を針で刺してイラストを描く様子



来場者に対応する学生



羊毛で描くお野菜マグネット



子ども食堂についての掲示パネル

活動の成果

A) ポスター・活動ユニフォーム等のデザイン制作

ポスターは、こども食堂のあたたかい雰囲気や、クリーム色を基調としたデザインにまとめ、効果的に伝えることができた。鮮やかなオレンジ色のTシャツに、食事をするのが楽しくなるようなキャラクターを描いた活動ユニフォームがあるので、学生とこども食堂スタッフの一体感を実感することができた。

B) 出張こども食堂 in 津幡

小学生向けワークショップの参加者は、30人（こども19人、大人11人）、フォーラムの参加者は、17人（登壇6人、聴講11人）となり、大学とこども食堂のスタッフを含めると、約80人が参加した大きなイベントとなった。こども食堂未開設の地で、1つのムーブメントを起こせたと感じる。

C) 出張こども食堂 in 子育て支援メッセ

小さなこどもを対象にマンツーマンで対応したワークショップには、84人が参加して、野菜のマグネットづくりを楽しんだ。こども食堂のアンケートやゲームに参加して、食材を受け取った来場者は500名を超えた。多くの子育て家族にこども食堂をアピールすることができた。

1. 活動の要約

本活動では、おおくわこども食堂・かなざわっ子 nikoniko 倶楽部と連携し、こども食堂のない地域に出向き、認知向上を目的とした「出張こども食堂」を2回開催した。

まず石川県のこども食堂に興味や親しみを感じてもらえるようなキャラクターを制作し、ポスターやバナー、活動ユニフォーム等に展開した。

1 回目の「出張こども食堂」は、石川県立津幡高等学校で開催した。小学生向けワークショップとこども食堂フォーラムをそれぞれ別の教室で行った後、食堂で一堂に会し、カレーを食べながら楽しい時間を過ごした。2 回目は、産業展示館で開催されるイベント、子育て支援メッセにブース出展という形で開催した。学生はこども向けのワークショップを、こども食堂はアンケートや景品付きゲームを行った。さらに、今後もこども食堂の認知向上につなげるための意見交換を行った。

2. 活動の目的

こどもの居場所や地域の交流の場として、こども食堂は近年、ますます重要性が高まっている。こどもも大人も等しく集える温かい場所として気軽に利用するには、小学校区に1か所、こども食堂が存在していることが理想である。しかし現状は約200校ある石川県の小学校において、校区内にこども食堂があるのは、わずか40か所ほどにとどまっており、充足率は全国的にみても下位に属している。

そこで、まずはこども食堂の認知度向上を目的に取り組みを進めることとし、こども食堂がない地域での出張こども食堂の開催や新規設立の後押しをすることで、充足率の向上を目指した。

3. 活動の内容

当ゼミは、おおくわこども食堂と2年間の活動実績がある。これまで、こども食堂利用者に向けて、様々なアートワークショップを提供してきた。今年度新たに開始した取り組みは、かなざわっ子 nikoniko 倶楽部（石川県内こども食堂の様々なパイプ役を担う団体）協力のもと、石川県全域のこども食堂に協働の輪を広げ、行政も巻き込んだ認知度と充足率の向上につながる周知活動の施行である。

5月、両こども食堂の代表と今年度の活動計画についてすり合わせを行った。6月、学生とこども食堂との顔合わせと企画ミーティングを行った。以降、基本的に大学の定例ゼミにてグループミーティング・試作制作・進捗確認を実施した。ゼミの特性をいかした活動について3つに別けて以下に示す。

A) キャラクター・告知ポスター・活動ユニフォーム等のデザイン制作

企画ミーティング後、学生はキャラクターについて検討を重ね、7月、ゼミ内プレゼン、投票にて1案に絞った。その後、コックに見立てた石川県と、食べ物をモチーフにしたいいくつかの楽しいキャラクターを完成させ、「出張こども食堂」告知ポスターと活動ユニフォームのデザインに展開した。

ポスターデザインは、複数案制作し、代表学生がオンラインミーティングにて提案。こども食堂の意向を反映して、スプーンに山盛りのおにぎりやおかずがのった食べる楽しさを表現した案に決まった。学生は印刷データを作成し入稿、こども食堂は県政に掛け合い、開催の後援を承け、ポスター100部、チラシ3000枚の印刷を手配した。

活動ユニフォームは、8月末、金沢湯涌創作の森シルクスクリーン工房にて、1泊2日の日程で、約50枚をゼミ生全員が参加して刷り上げた。



こども食堂とのミーティング



キャラクターのコンペ



活動ユニフォームの印刷

B) 出張こども食堂 in 津幡 10月8日(日)開催 会場：石川県立津幡高等学校

9月、ポスターとチラシは、短期大学のこどもセンターに協力を仰ぎ、子育て家庭に配布した。同時に、会場で使用するバナーデザインやワークショップの準備を重ねた。こども食堂は、県内こども食堂や福祉施設、津幡高校周辺住宅にチラシを配布し、イベントに向けて集客を図った。当日、ゼミは小学生向けワークショップを運営し、こども食堂はフォーラムを運営、県の少子対策担当者も登壇した。2会場にて同時進行で行った後、お昼は一堂に会し、カレーライスを食べながら歓談した。



ワークショップの様子



フォーラムの様子



昼食の様子

C) 出張こども食堂 in 子育て支援メッセ 11月19日(日)開催 会場：石川県産業展示館

10月、イベント時のブース壁面を効果的に使用して、こども食堂をアピールする方法について検討を重ねた。キャラクターやキャッチコピーと共に、様々な情報を二次元コードにして掲示することに決定した。当日、ゼミはワークショップ、こども食堂はアンケートと景品付きゲームを行った。



ワークショップでこどもに対応する学生



ブースの壁面



アンケートの対応をするこども食堂

4. 活動の成果

A) キャラクター・告知ポスター・活動ユニフォーム等のデザイン制作に関して

出張こども食堂の告知ポスターは、石川県をコックに見立て、みんなで集い合って一緒に食べる楽

しさを表現したイラストをメインビジュアルに据えた。こども食堂のポスターは全国でも例がなく、クリーム色を基調にすることで、あたたかい雰囲気を効果的に伝えることができたと感じる。

遠くからでも目をひく鮮やかなオレンジ色のTシャツに、食事をするのが楽しくなるようなキャラクターを描いた活動ユニフォームがあることで、イベントの度に学生とこども食堂スタッフの一体感を実感することができた。また、イベントの参加者に対しても、こども食堂関係者だと認識されやすくなり、イベントのしやすさにも繋がった。

「あなたの地域に子ども食堂はありますか？」というストレートなキャッチコピーは、こどもにも大人にも、自分の地域のこども食堂について考える問いかけとなった。

B) 出張こども食堂 in 津幡に関して

本イベントで初めてこども食堂を利用する人が多く、野菜のストラップづくりのワークショップがあることで楽しい雰囲気だったという声が多かった。良い印象を与えることができたと感じる。また、こども食堂フォーラムでは、開設したい熱い思いがある参加者が集まったこともあり、石川県の担当者から助成金の説明と、こども食堂運営者による実感のこもった経験談によって、新規立ち上げに繋がる話し合いの場となった。新聞にも報道され、地域の刺激につながった。

小学生向けワークショップの参加者は、30人（こども19人、大人11人）、フォーラムの参加者は、17人（登壇6人、聴講11人）となり、大学とこども食堂のスタッフを含めると、約80人が参加した大きなイベントとなった。こども食堂未開設の地で、1つのムーブメントを起こせたと感じる。

C) 出張こども食堂 in 子育て支援メッセに関して

小さなこどもを対象にマンツーマンで対応したワークショップには、84人が参加して、野菜のマグネットづくりを楽しんだ。こども食堂のアンケートやゲームに参加して食材を受け取った来場者は、500名を越えた。ワークショップにこどもが参加して手が離れることで、ゆっくり説明に耳を傾ける親もあり、多くの子育て家族に対して、こども食堂をアピールすることができた。

学生は、ひっきりなしにブースを訪れる家族連れに、最初は戸惑いながらも協力しながら笑顔で対応した。閉場の1時間ほど前には、ワークショップ用に準備した材料が全てなくなり盛況の内に終了した。以下学生の感想から抜粋。

- ・野菜マグネットを作っている時に、保護者から子ども食堂について質問されることが多く、興味を持ってくれる人がたくさんいることが嬉しかった。
- ・狭いスペースに沢山の子どもたちが来たけれど、材料の配置を変えたりすることで、臨機応変に対応出来ていたと思う。
- ・スタッフやブースの賑やかな雰囲気が集客につながることや、声かけがあるだけで興味を持ってもらえることに気付いた。
- ・すごく明るいイメージのブースになったと感じていて、Tシャツのデザインだったり、人との接し方など、自分たちの関わり方が想定人数をはるかに上回る集客に繋がったと思う。

子ども食堂が石川県に普及しない要因の一つとして、石川県は大家族で孤食ではない、という負の安心感が蔓延していることが挙げられるという。また、こども食堂は、経済的に苦しい家族やかわいそうなこどもの居場所というイメージを払拭しないかぎり、地域の誰でも集えるあたたかい場所というイメージを抱けないだろう。地元の旬の美味しい野菜や伝統料理をみんなで食べたり、こどもの食事や健康に関心を持ったり、高齢者も生きがいを感じられる繋がり場所として認知されるよう、周知活動を継続していく。本活動は、パネルと動画にまとめて石川県デザイン展で展示発表を行った。

12月、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえにより、こども食堂全国箇所数（調査期間2022年10月～2023年10月）が発表された。本事業の影響が新規立ち上げ数として数値化されるのは次年度以降となる。



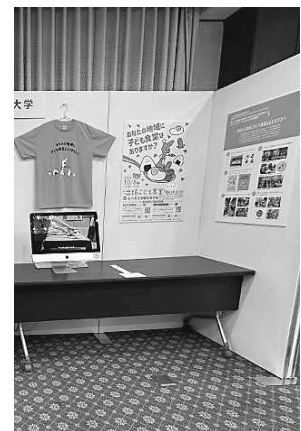
中日新聞（10月9日朝刊）



ポスターデザイン



活動ユニフォーム



石川県デザイン展展示風景

5. 今後の活動計画

今年度の成果を踏まえ、次年度以降も引き続きおおくわこども食堂、かなざわっ子 nikoniko 倶楽部と連携し活動を継続して行くことを協議している。

また、制作した広報物の浸透を検証しながら、新規設立の後押しと、運営中のこども食堂の継続に対するエールとなるような活動を通じて県内こども食堂の絆の強化に貢献したい。

6. 活動に対する地域からの評価

おおくわこども食堂・かなざわっ子 nikoniko 倶楽部より、下記のとおり評価をいただいた。

こども食堂がまだない地域では、こども食堂がどのような場所か知らない人や、少しマイナスなイメージを持つ人もいる中で、出張こども食堂 in 津幡を開催するには工夫が必要であった。その工夫の部分を広根ゼミのアートワークショップが担っており、こども食堂と同時に開催することで、子育て世帯が参加しやすくなった。また、インパクトのあるポスターとチラシをデザインしていただいたことで、事前に掲示や配布ができ、地域住民に広くお知らせすることができた。認知拡大には、印象に残る広告やイベントが不可欠で、これまでのこども食堂では出来ない役割を果たしていただいた。全国的に「こども食堂」のポスター制作の前例はほとんどなく、また石川県の少子化対策監室と連携しポスターの後援がついたことも良かった。

出張こども食堂 in 子育て支援メッセでは、子育て支援団体が約100ブースのお店を出し、工作や体験、食品配布、販売をしており、その中で来場者にこども食堂ブースに来ていただくことは容易ではなかったが、広根ゼミのアートワークショップと学生の呼び込みが行き交う人の足を止める形となった。作品を入れる手提げ袋にも工夫を凝らし、こども食堂の文字やイラストがプリントされた小さなチラシを手提げ袋に貼ることで、他の来場者にもアピールできる形となった。また、ブースを見栄えよくデザインしていただいたことで、他のブースと差別化することもできた。